

【研究ノート】

食育出前授業の学びとしての“気づきの連鎖効果”に関する事例研究

—“食育劇”と“農場体験”を経験した学生の学びから—

The Chain Effects in Dietary Education Demonstration Classes:  
Students' Learning through Performance and Farming Practice

前川美紀子・東江直樹

要旨

本研究は、北部地域の高校生と大学生が協働して地域の小学生に行った食育出前授業の取り組みとその効果について検討したものである。出前授業を受ける小学生と実施者である高校生、大学生が授業を経験する中で、実施後の感想の内容から、それぞれが変化していくプロセスをまとめた結果、“気づきの連鎖効果”が明確になった。食育出前授業では、高校生が「生産者の思いを伝える，“いただきます”の意味を伝える，大学生が食に対する知識を伝える」ことで、小学生に食に関する基本的な知識と食への関心をもたせ、食に対する意識や気づきを強化し、食育実践につなげた。小学生は、「自己の健康についての関心」、「心がけへの涵養」、「生命への感謝から残食をしない行動変容の喚起」といった自己変容につながる効果がみられた。高校生、大学生は、小学生に食について伝えるという行動を通して使命感が高まり、そのことが自己効力感の向上につながっていた。さらに、食育出前授業の実践が仲間同士の関係性を高め、相互の関わりから気づきの連鎖効果を生み出していた。食育出前授業は、小学生の食育のための取り組みであるが、大学生や高校生にとって協同学習の場となるとともに、学校現場の食育効果を高める有効な取り組みであることが示唆された。

キーワード：小学生，高校生，大学生，食育出前授業，気づき

I はじめに

社会の変化に伴い、少子化、地域社会での人間関係の希薄さ等から生じる教育力の低下

は、いわゆる生きるうえで基本的に身につけていなければならないスキルの獲得に大きく影響している。元来、ライフスキル能力は各家庭で脈々と培われ継続されてきた。しかし、子どもたちを取り巻く家庭や地域の教育力の低下が子どもの生活を脅かし、食生活を含めた基本的な生活が十分ではない状況を作りだしてきた。そのため、2005年に食育の実施に関する『食育基本法』が制定された。食育とは、『生きる上で基本であり、知育・徳育・体育の基礎となるもの。様々な経験を通じて、「食」に関する知識と、「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。』と、位置づけられている。食育基本法を受け、地域の幼稚園や小学校が農場や飼育場等の現場を見学するなど、生産の過程を学ぶことで食育につなげるような取り組みが全国的にも広がっている。<sup>(1)</sup>

筆者はこれまで大学生による「食育劇を用いた出前授業」を計画し、「早寝・早起き・朝ごはんー生活リズムを整えることの大切さー」をテーマとして活動してきた。食育の中心となる家庭に食育の重要性を伝えるためには、小学生に正しい知識や行動を啓発することが大切であり、そのことが間接的に家庭における食生活を整え、食育実践につながるのではないかと考え、食育劇を用いた出前授業を継続してきた。これまでの食育劇の取り組みを通し、小学生の健康行動変容へのモチベーションが高められること、実施者である大学生が小学生の変化に気づき、自らも変容できること、いわゆる“気づき”や“感性”を育むことに効果的であるという結果を得ている。<sup>(2)</sup> 今回、食の原点が農業と関わることから、農業を学ぶ高校生と大学生の協働で企画した食育出前授業を試みた。

そして、食育劇を通した出前授業の実践評価をもとに、小学生、高校生、大学生の取り組みの実際とそれぞれの学びについて検討した。

## II 研究目的

小学生を対象として実施する高校生、大学生の食育出前授業の評価を行い、高校生、大学生が食育の取り組みでどのような変化をしたのか、小学生、高校生、大学生が何を学んだのかを明らかにする。

## III 研究方法

### 1. 研究期間

平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月

### 2. 研究対象

沖縄県北部地域 A 小学校 4 年生 58 名，大学生 8 名，高校生 8 名

### 3. 研究方法

#### 1) 介入研究

##### (1) 大学生による食育劇を用いた出前授業の実施（平成 21 年 4 月）

- ・ 小学 4 年生に食育劇を実施するため，小学校教師とともに総合学習の時間に実施するための調整を行う。
- ・ 小学生に「早寝・早起き・朝ごはんの重要性」のテーマで食育劇の授業を行う。
- ・ 授業後に振り返りの時間を持ち，小学生の疑問や質問に対応する。

##### (2) 高校生による農場体験（平成 21 年 7 月）

- ・ 高校生が行う食育出前授業の目標および方法について，高校生，大学生双方で確認，調整する。
- ・ 高校生による食育出前授業の目標設定を行い，目標達成に向けた食を意識させる事前学習（授業）を行う。
- ・ 小学 4 年生に農場体験を実施する。
- ・ 体験後の振り返りを行う。

#### 2) 調査研究

(1) 高校生，大学生に授業の実施について振り返りのディスカッションを実施し，内容をまとめる。

(2) 小学生に食育劇後の感想文を記述してもらい，内容をまとめる。

### 4. 分析方法

小学生の感想文について，記述内容を意味単位の文章にしたうえで，体験学習の目標である「体験を通して食を意識する」が提示している項目にそって検討し，内容の類似性に沿ってカテゴリー化した。

高校生，大学生の実践への取り組みの評価として，ディスカッション内容から学びに関する内容を抽出した。

### 5. 倫理的配慮

介入研究の実施については，A 小学校の校長に口頭で説明し，同意を得た。また，小学生，高校生，大学生には実施に関する目的，内容，方法等を説明し，介入研究であることを口頭で説明した。さらに，実施に伴う感想について，調査用紙に記述していただくこと，結果は研究に使用する旨を説明した。その際個人が特定されないことを説明し了承を得た。

#### IV 介入の実際

##### 1. 「食育劇を通した出前授業」の実施：対象学年の決定方法と出前授業

A 小学校の食育実施として、大学生、高校生が小学校において担当教員とともに食育の目標、実施方法や授業の進め方について確認、調整した。食に関する視点及び重点目標を確認し、小学生に食について伝える具体的な方法について検討した。(図1参照)

4年生を出前授業の対象とし、協力依頼するとともに、高校生は体験学習として農場体験を通して食について意識してもらえるような授業を進めることを中心とした。大学生は、「食生活に対する知識を伝える」ことを中心に、食育劇による出前授業を行うこととした。



図1 高校生、大学生の出前授業企画のためのミーティング

##### 2. 大学生による出前授業の実施

総合的な学習の時間を活用し出前授業を実施した。大学生による食育劇は、一方的に進めるのではなく、小学生の興味・関心を促すため、質問を導入したり、子どもたちの意見や理解度を確認しながら参画型の体験学習とした。終了後には、振り返りの時間を取り、小学生の学びを総括する方法を取り入れた(図2・3・4参照。H21.4)



図2 食育劇の様子



図3 小学生に質問をしながら進める授業風景

図4 終了後の振り返り学習

### 3. 高校生による体験学習の実施

高校生による体験学習を実施するために、事前学習として「農場で体験すること」とした学習会を行った。スライドやパンフレットを用いて理解を促すとともに、体験学習につなげるよう試みた。高校生が企画した体験学習では、実際に農場を学習の場として実施した。農場での家畜の管理体験、作物や家畜の育つ過程を実際に家畜や作物にふれる体験をととして学習した。大学生は小学生の学びを確認するとともに、安全管理に気を配りながら、高校生のサポートを行った。



図5 高校生による事前学習の実際



図6 農場体験の実際 (H21.7)

## V 結果

### 1. 食育劇に対する小学生の感想

食育劇実施後の小学生の感想文を意味単位の文章にしたうえで、「体験を通して食を意識する」という体験学習の目標項目を参考に検討し、類似性にそって項目をまとめた。

表1 食育劇をととした小学生の学び

カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容
これまでの食生活 の振り返りとバラ ンスのよい食事撰 取への意識  (①～⑫)	生活リズム  (①～③)	①早寝・早起き・朝ごはんを守る。 ②土曜日はバランスよく食べていない。 ③劇を観てから朝ごはんを食べている。
	好き嫌いの克服  (④～⑥)	④これまでは緑の野菜をあまり食べていなかった。劇をみて緑の野菜が食べられるようになった。 ⑤私は、野菜の好き嫌いがとっても多いから少しは直します。 ⑥好き嫌いしない。
	栄養バランス  (⑦～⑨)	⑦私はいつも朝ごはんを食べているけどちゃんとバランスよく食べているかなあと思いました。 ⑧やっぱり好き嫌いをしたらだめだとわかった。 ⑨バランス戦隊が負ける。
	早寝早起きの重要性  (⑩～⑫)	⑩早寝早起き朝ごはんを身につけたいです。 ⑪早寝早起き朝ごはんもちゃんと食べて元気モリモリになりたい。 ⑫早寝早起き朝ごはんを毎日頑張る。
	生活の振り返り  (⑬～⑮)	⑬僕は勉強や友達と遊びたいから朝昼夜一生懸命食べたいと思いました。 ⑭早寝早起き朝ごはんもちゃんと食べて学校に登校する。 ⑮早く寝ないと病気になりやすいとわかった。 ⑯劇をみて、ゆきちゃんが私の生活だったらいやだなあ。 ⑰私は 6:30 に起きられませんでした。 ⑱ 朝は食欲がなかったです。



		⑳ 学校に行っても眠かったです。
栄養素（赤黄緑） のバランス効果の 理解  (①～⑥)	栄養素の理解  (①～③)  栄養の必要性  (④～⑥)	①赤の食べ物は筋肉や骨を作って，黄色の食べ物はエネルギーになり，緑の食べ物は身体の調子を整える。 ②赤黄緑をきちんと食べる，緑を食べる。 ③パンだけではお腹が空く。 ④ばい菌マンにやられるから，赤黄緑を食べないとなかなか元気がでない。 ⑤朝ごはんを食べても赤・黄・緑をそろえないとだめなんだと思った。⑥やっぱり，好き嫌いしたらだめだとわかった。
朝食摂取の重要性  (①～⑥)	体調管理に朝食が 大切  (①～④)  勉強に集中できる  (⑤～⑥)	①朝ごはんを食べないと，気分が悪くなる，頭が痛くなる，体調不良になって保健室に行く。 ②集中力がなくなる。 ③お兄さんたちは，朝ごはんを食べているから大きな声がでる。 ④朝ごはんを食べないと一時間目から元気がでない。 ⑤朝ごはんを食べないと学校で勉強できないし，友達とも遊べない。これからは，朝ごはんをちゃんと食べて元気もりもりになる。 ⑥私が朝ごはんを食べないとバランス戦隊も元気が出ないんだとわかった。
大学生に対する尊敬とあこがれ  (①～⑬)	共感・感銘・励まし  (①～⑧)	①とっても勉強になりました。 ②名桜生はみんなに教えて凄い ③自分たちのために来てくださってありがとう。 ④説明が上手で分かりやすかった。 ⑤とっても楽しかった。 ⑥習ったことを実践したい。 ⑦自分も朝ごはん頑張っている。もう一度話が聞きたいです。楽しかった，また見たいです。劇で色々なこ

	あこがれ (⑨～⑫)  尊敬 (⑬)	とを教えてくださいありがとうございます。 ⑧忘れない、また来てほしい。 ⑨すごい、かっこいい。 ⑩同じ大学へ行きたい。 ⑪大きい声で演技が上手で、わかりやすい。 ⑫劇をみてよくわかった。 ⑬一生懸命、ふざけないで凄い。
食と睡眠が成長に およぼす影響の理 解  (①～⑦)	脳のはたらき、睡眠 の大切さの理解  (①～⑦)	① 寝ている間に成長ホルモンがでる。 ②夜遅く寝ると睡眠時間が短くなって成長しない。 ③寝ている間に頭の中で必要な記憶と必要でない記憶 が整理できる。④寝ている間に赤黄緑は働くと初めて 知った。 ⑤寝ている間に筋肉や血液や骨が作られる。 ⑥夜十時ごろから成長ホルモンが出るのでそれまでには 寝る。 ⑦9時に寝ないと朝起きたときにまだ眠い。

食育劇を通して小学生はこれまでの自分自身の食生活を振り返り、バランスの良い食事摂取が大切であると認識していた。記述内容では「これまでの食生活の振り返りとバランスのよい食事摂取への意識」のカテゴリーのコード数が一番多く、対象とした小学生 58 人のうち、30 人(52%)が記述していた。また栄養素のバランス効果の理解は 25 人(43%)、朝食摂取の重要性については 21 人(36%)が記述していた。小学生の半数である 29 人が、出前授業を担当した大学生について「かっこいい」「すごい」などの表現をしており、「同じ大学に行きたい」という希望を記述していた。

## 2. 農場体験による学び

高校生が実施した農場体験について表 2 に示した。大学生同様に記述内容を意味単位の文章としたうえで類似項目にそってカテゴリー化した。

表2 農場体験後の小学生の学び

カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容
農場体験への期待と楽しみ	育てる楽しみ	①野菜を育てるのが楽しみ。



<p>(①～⑬)</p>	<p>(①～⑤)</p> <p>牛の世話する楽しみ</p> <p>(⑥～⑬)</p>	<p>②野菜を自分で育てて食べるのが楽しみ。</p> <p>③ピーマンは苦手だけど育ててみたい。</p> <p>④使用される農場器具を触ってみたい。</p> <p>⑤ピーマン，ゴーヤー，オクラの夏野菜を育てるのが楽しみ。</p> <p>⑥運動場の 100 倍の農場に行くのが楽しみ。</p> <p>⑦餌をあげるのが楽しみ。</p> <p>⑧チャージャー<sup>(3)</sup>にあうのと、牛の角を見るのが楽しみ。</p> <p>⑨ダチョウにあうのが楽しみ。</p> <p>⑩牛の世話をするのが楽しみ。</p> <p>⑪動物はこがてだけど、アグー<sup>(4)</sup>やチャージャーは大丈夫と思う。</p> <p>⑫お兄さんお姉さん育てている動物を見るのが楽しみ。</p> <p>⑬北部農林高校生との触れ合いが楽しみ。</p>
<p>家畜の飼育に関する理解</p> <p>(①～⑪)</p>	<p>家畜の飼育の方法からの学び</p> <p>(①～⑪)</p>	<p>牛は、ほしくさ以外に飼料も食べる。</p> <p>②えさを考えて与えていることが分かった。</p> <p>③えさはコーンもあげている。</p> <p>④豚は8か月になったらすぐ出荷される。</p> <p>⑤チャージャーやアグーの違いがわかった。</p> <p>⑥命の大切さがわかった。</p> <p>⑦牛を売るときの体重は 800～900 k g とはじめて知った。</p> <p>⑧牛は2年と6か月たつとお肉になる。</p> <p>⑨僕は、牛や豚を食べているから感謝の気持ちをもって残さず食べたい。</p>

		<p>⑩お兄さん達が、出荷されて「おいしい」と言われたと言ったのでびっくりした。</p> <p>⑪餌のことがわかった。</p>
<p>高校生への尊敬の念と憧れ</p> <p>(①～⑪)</p>	<p>高校生への尊敬の念</p> <p>(①～②)</p> <p>高校生への感謝</p> <p>(③～⑩)</p> <p>高校生への期待 (⑪)</p>	<p>①何も見ないで、僕達に色々紹介してすごい。</p> <p>②大変だけど頑張っているのすごい。</p> <p>③忙しい中説明してくれてありがとう。</p> <p>④ぼくたちのために時間を削ってくれてありがとう。</p> <p>⑤牛や豚の説明をしてくれてありがとう。</p> <p>⑥農場を説明してくれてありがとう。</p> <p>⑦いろいろなことを教えてくれてありがとう。いろいろなことをすごくわかってためになった。</p> <p>⑧動物や食物を育ててすごい。</p> <p>⑨いろいろなものを作って体験している。</p> <p>⑩楽しそうだ。</p> <p>⑪北部農林高校に入りたい。</p>
<p>生産者の大変さの理解</p> <p>(①～⑩)</p>	<p>育てる楽しさ</p> <p>(①～④)</p> <p>給食を残さないで食べる意味の理解</p> <p>(⑤～⑦)</p> <p>生産者の気持ちと共感</p> <p>(⑧～⑩)</p>	<p>①出荷されるのがうれしんだなあ。</p> <p>②いつもたいへんなこともして育てていることが分かった。</p> <p>③「うちの掃除は大変だけど『たのしい』」と言っていたけど毎日たいへんだなあと思う。</p> <p>④ぶたとか牛とか育てるのは大変だけどとっても楽しさがわかった。</p> <p>⑤クラスの給食連続54回になる。</p> <p>⑥これからも頑張る。</p> <p>⑦クラスの給食残さず全部食べている。</p>

		<p>⑧いろいろな人の手があって作られていることがわかった。</p> <p>⑨牛や豚はくさくていやだと思っていたけどお兄さん達が育てているから大好きになった。</p> <p>⑩お兄ちゃんがそこに行っているの、つかれたといってすぐ眠るのが大変だからだと分かった。</p>
自己の食生活の振り返り	(①)	<p>①僕は、給食や朝ごはんは残さないようにいつも感謝しながら食べたいと思います。</p>

「農場体験への期待と楽しみの」の中でも、「育てる楽しみ」としての栽培から食につながる感想も多く（①～⑬）体験型学習が小学生の学習動機に効果的であることが理解できる。また、飼育や栽培というプロセスを体験することで生産者の大変さの理解につながっていた（①～⑩）。高校生に対しては大学生同様「すごい」という評価が聞かれ、さらに「楽しそう」「高校に行きたい」という希望につながっていた（①～⑪）。

### 3. 高校生、大学生の取り組みと評価

出前授業を経験した大学生や高校生は、授業を通してどのような学びをしたのか、終了後のカンファレンスの内容から、評価につながることばを抽出した。（表 3 参照）

表 3 高校生と大学生のそれぞれの反応

大学生が実施した食育劇に対する高校生の意見	農場体験を実施した高校生に対する大学生の反応
①小学生が楽しく見られるよう、大学生は質問の仕方も工夫していた。	①愛着が沸かないようにする工夫など普段から豚や牛と接している北農生の落ち着きに驚かされた。

<p>②名桜生の劇を見て凄いと思った。小学生の反応も良く質問に対して色々な答えが返ってきた。</p> <p>③笑いもあれば学びもありとっても凄かった。小学生からは「面白かった」「またやってほしい」との声もあった。</p> <p>④小学生への接し方がわかった。</p> <p>⑤小学生達が凄く興味津々で質問も沢山出たことに驚いた。</p> <p>⑥小学生が楽しめるようにできており、食育について勉強ができるように作られていて凄いなと思った。</p> <p>⑦自分たちも小学生に何か伝えたいときは、こういう工夫が必要だと思った。</p>	<p>②普段口になっている牛や豚を目の当たりにしてとても生命のありがたさを感じた。</p> <p>③初めて豚や牛を近くで見てとても感動した。</p> <p>④ご飯を残さないようにしようと思った。</p> <p>⑤消費者の立場だけでは知らないことが見学によって知ることができた。</p> <p>⑥当日は子どもの質問に答えられるようにある程度の知識は身につけたい。</p> <p>⑦北農生は積極的に声をかけてくれたり質問にすぐ答えられていた。</p> <p>⑧一日で農場全体の見学は難しいと思う。</p> <p>⑨見学する場所を絞り各ポイントに分かりやすい説明書を貼る。</p> <p>⑩時間配分，グループに付ける指導者数の決定。</p> <p>⑪日差しがとても強いこども達に熱中症対策をさせる。</p>
--	--

## VI 考察

### 1. 出前授業の効果

小学生を対象に実施した食育出前授業は、小学生の気づきを高めるために、高校生や大学生がさまざまな工夫をし、小学生の興味・関心を引き出していた。また、高校生、大学生の真剣な取り組みの姿勢に、小学生は食の大切さや生産することの大変さ、意味を見出していた。さらに、お兄さん・お姉さんの存在である高校生や大学生が、教師と同じように教えていることに憧れさえ抱いていた。このような取り組みが、小学生の食育実践への動機づけとなり、学びの多い体験学習の成果につながったと考える。食育劇では、栄養バランスの効果、食と睡眠の大切さ、身体で栄養素が使われていく様子を実感していた。農場体験では、体験の事前学習で体験への期待や家畜に対する理解が高まり、体験後のさまざまな学びにつながっていた。特に、生産者の大変さや家畜の飼育が食することにつながり、命について考える機会を得、感謝につながるなど、教室では学べない実体験の中の学びが「すごい」という表現となっていた。地域の中で子どもたち同士の交流機会が少ない

現代社会において、地域の高校生や大学生が、地域の小学校に出向くことは、新たなコミュニケーションの輪を築く機会へとつながった。

出前授業の効果として、小学生の食行動の見直しがみられ、「好き嫌いをしないで食べる」「給食を残さない」など、食行動変容の喚起につながった。小学生の食育実践に向けた高校生、大学生の協働での食育出前授業では、大学生、高校生がそれぞれ違う教材を用いて小学生に働きかけることにより、設定した体験授業の目標が達成された。今回の取り組みにおいて、小学生、高校生、大学生がそれぞれの立場において、相互に尊敬の念をいだき、そのことが相互の思いやり、気づきの強化となっていた。

## 2. 食育劇に取り組む大学生の取り組みの変化

大学生の食育劇への取り組みは、現代の食事情から食に対する危機感を感じ、子どもたちに現状を伝えなくてはならないという“使命感”からスタートした。今回の出前授業では、小学生が真剣な眼差しで観劇する姿を目の当たりにし、食への意識が高まっていく姿勢から、大学生自身も、「実生活で食に対して気をつけるようになった」と食生活を意識していく行動変容へとつながった。さらに、高校生との協働授業を通し、高校生への尊敬の念や生命の尊さ、消費者としての知識の修得など、新たな気づきを得え、より良い食育劇の創造につながる機会となった。

## 3. 生産者としての思いを伝えることに取り組む高校生の取り組みの変化

高校生は、出前授業に先立ち、地域の老人会から聞き取り調査をし、食育には「食に対する知識を伝える」こと、「体験を通して意識する」ことが必要な要素であることを理解していた。その体験をもとに「生産者の思い」を伝え、食への意識、命の大切さ、「いただきます」の重みへとつなげる授業展開を試みた。農業高校生として、自分達が「農業」について学んだことをどのような方法で伝えるか、生産者として食糧を生産するだけではなく、消費者や子どもたちに自分たちの思いや、伝統、食文化を伝えるという、新たな魅力を見つけ、伝えることを考慮した。そのことが小学生の気づきの強化、行動化につながったと考える。「農業体験」を大学生と共に取り組むことで企画・実践の方法や、自らの思いを人に伝える力を身につけること、さらに小学生の評価から農業の魅力や無限の可能性に気づかされ、食卓と生産者が切り離されている現代における食と農を結びつける重要な教育につながったと思われる。

#### 4. 食育実践の行動化へ移行するために重要な“気づき”

食育において、気づきへの働きかけが重要であると感じるのは、「健康的な食行動」の実践ができていない子どもたちが多くいることである。気づかない、気づいているがどのように行動して良いか分からない状況にある場合、行動変容を喚起し、高める効果は望めない。現在の家庭の教育力や地域の教育力のみでは、小学生の行動に変化をもたらすことは困難な状況にあると考える。食育基本法制定後、学校現場では食育が実践されており、少なからず小学生への気づきは刺激されている。食育実践には、適正な知識と技術、気づきが必要であり、主として、家庭や地域社会の中で学習され行動化に至ると考える。学校現場と家庭との取り組みが効果的に行われることが、小学生の健康を守り育てることになる。自分の生活習慣を点検し、自分で変えなければならないことに気づき、変革していく過程には、気づきが必要である。<sup>(5)</sup> 今回の取り組みのように、小学生にとって身近な存在である地域の高校生、大学生の関わりが小学生の「ありたい自分、あるべき自分」の気づきを引き出していたと考える。

#### VII まとめ

気づきが強化されるとは、食育実践を目的とした様々な場面での介入において、対象が多くの刺激を受け、実践が動機付けられることであると考ええる。高校生、大学生による食育出前授業では、授業を受ける小学生だけではなく、実施者である高校生、大学生が小学生から気づきの大切さを学んでいる。

また、協同学習の理念である双方向的な学習が実践でき、相互に影響し合う「気づきの連鎖効果」が明確になった。図7に「食育劇・農場体験出前授業の気づきの連鎖効果」を示したが、気づきが自らの生活や行動を変容させ、新たな自分を作り上げていく重要な視点であることが見出された。そのことが、食育の理念である「豊かな人間形成（知育・徳育・体育の基礎）」、「心身の健康増進」につながると考える。





図7 食育劇・農場体験出前授業の気づきの連鎖効果

## VIII おわりに

小学生を対象に実施した高校生と大学生の協働による食育出前授業の評価についてまとめた。出前授業を通して、小学生、高校生、大学生がそれぞれの立場をとおして、相互に学び合うことによる「気づきの連鎖効果」が生まれ、効果的な学習方法であることが確認できた。

今回の学びが食育の実践への行動変容につながるためには、その人の価値観の変化が求められる。今回の小学生の感想から健康への意識が確認され、生活習慣を整えることの重要性が意識化された。生活習慣と健康との関連をさらに意識化できるよう、今後は小学生への授業のあり方を工夫し、健康行動への変容を意識した食育授業の取り組みを検討していきたい。

## IX 謝辞

今回の研究にあたりご協力いただきました、A 小学校児童はじめ、関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

#### 注及び引用文献

- (1)内閣府編集, 「食育基本法」, 平成 21 年度版食育白書, p.2, 2010 年。
- (2)前川美紀子, 大学生による出前講義「食育劇」の取り組みとそれが及ぼす効果について, 名桜大学紀要, p.365, 2009 年。
- (3)チャーグー, 北部農林高校熱帯農業科畜産コースの生徒らが, 沖縄在来種のアグーと米国系品種デュロックを掛け合わせてつくった肉豚。
- (4)アグー, 沖縄県の琉球在来豚の一品種。島豚(しまぶた, 琉球方言: シマウワー)。
- (5)野崎康明, ウエルネスマネジメント, メイツ出版, p.12, 2006 年。

#### 参考文献

- (1)A 小学校食に関する視点及び重点目標, 中学年の食について 2011 年度。
- (2)服部幸應, 服部幸應のはじめての食育, 株式会社ローカス, 2007 年。
- (3)日野原重明, 健康行動の提言, 中央法規出版株式会社, 1991 年。
- (4)石田志芳編著, 子どもが親に「別に……」しか言わないワ, 株式会社 PHP 研究所, 2011 年。
- (5)ジェームズ・アレン著, 坂本貢一訳, 「原因」と「結果」の法則, サンマーク出版, 2011 年。
- (6)川畑徹朗他監訳, WHO・ライフスキル教育プログラム, 大修館書店, 1997 年。
- (7)岸朝子, 人生おいしゅうございます, グラフ社, 2006 年。
- (8)関西大学人間活動理論研究センター編著, 学びあう食育, 中央公論新社, 2009 年。
- (9)清川輝基, 人間になれない子どもたち, 樫出版社 2007 年。
- (10)真仁田昭, 児童心理 金子書房 8 月号第 60 巻第 11 号 平成 18 年 8 月 1 日発行
- (11)野崎康明, ウエルネスの理論と実践, 丸善メイツ株式会社, 1998 年。
- (12)新村洋史, 猪瀬里美, 人間形成と食育教育, 芽ばえ社, 2008 年。
- (13)西日本新聞社「食くらし」取材班, 西日本新聞ブックレット⑪食卓の向こう側⑧西日本新聞社 2006 年。
- (14)小野寺杜紀訳, オレム看護論—看護実践における基本概念, 第 3 版医学書院, 2002 年。
- (15)杉本英夫, 「ウエルネスから視点」, 『保健の科学』, 杏林書院, Vol.52. №6pp.396-402, 2010 年。

## The Chain Effects in Dietary Education Demonstration Classes: Students' Learning through Performance and Farming Practice

Mikiko Maekawa, Naoki Agarie

### Abstract

This research examined the effects of demonstration classes in dietary education on elementary school students. The demonstration classes were provided collaboratively by high school and college students in the northern area of Okinawa prefecture. This research has clarified that there was “a chain effect of awareness of diet” in the learning process among the high school and college students as well as among the elementary school students who took their classes. In order to increase students' interest in basic knowledge of and attention to diet, the high school students taught the meaning of *Itadakimasu*, a common Japanese courtesy phrase said before a meal, as the word is supposed to invoke appreciation towards all the people associated with the meal. The college students also conveyed direct dietary knowledge in the demonstration class. There were three significant effects on the elementary students which may be related to an improvement in the students' self-awareness, namely an increased awareness of their own health, a better attitude toward dietary habits, and reinforcement in preventing food waste. At the same time, the high school and college students were able to increase their self-efficacy through class performances. Furthermore, demonstration classes led the students to learn about each other as they strengthened their affiliation as a team. The results suggested that demonstration classes in dietary education not only have a positive effect on elementary school education, but also provide high school and college students with opportunities for collaborative learning experiences.

Keywords: dietary education, elementary school students, high school students, college students, demonstration classes, awareness